



谷保の杜

国立市立 国立第三中学校

学校だより 9月号

平成28年9月15日



あきら

諦めない心こそ本当の才能

校長 山口 茂

39日間の夏休みが終了し、三中に再び子供たちの元気な声が戻ってきました。休み中に行われていた天井の耐震補強と照明器具の工事も無事終了しました。今回の工事により、1・2年生の教室及び技術科室の天井部分の張替とともに照明がLEDに交換されました。2学期は、明るい環境で日々の授業に取り組むことができます。残りの教室については、来年の夏休み中に同様の工事が行われる予定です。

さて、2学期は、合唱コンクールを始め、生徒会役員選挙、校外学習等の学校行事があります。毎日の授業を真剣に取り組むとともに、様々な学校行事等にも積極的に参加してください。そうした中で、2年生は、3年生の後を引き継ぎ、三中の要としての自覚を持ち、1年生は、中学生としての責任ある行動を果たし、活躍の場を広げていきましょう。そして、3年生は、進路を定めていく大切な時期を迎えることとなります。自分自身をよく見つめ直し、自分のよさを存分に発揮できる進路選択をして欲しいと思っています。

ところで、表題の「諦めない心こそ本当の才能」とは、私がある本で出会った言葉です。自分の夢や目標が成就できる最後の砦が「諦めない心」で、先天的な才能より重要であるという意味を表しています。諦めさえしなければ、夢が叶う可能性は飛躍的に向上する。ほとんどの人が成就しないのは、途中で諦めるからだそうです。今夏、ブラジル・リオデジャネイロで開催されたオリンピック夏季大会。日本選手団338名の素晴らしい活躍を見る度に私が感じたのは、この言葉が持つ意味の重さでした。オリンピック代表選手は皆、才能に満ちあふれている人たちです。しかし、試合で見せてくれた彼らの姿に、才能を超えた、最後の最後まで絶対に諦めないという強い心を見ました。それは、日本人にはメダル獲得が困難といわれていたカヌー、卓球、バドミントン、テニス、競歩。そしてお家芸のレスリング、柔道、体操とあげればきりがありません。自分には何の才能もない、才能がないからうまくいくはずがない。と思っている三中生はいませんか。そんな時は、「諦めない心こそ本当の才能」というこの言葉を思い出して下さい。才能あふれるオリンピック選手でさえ、最後まで諦めない心で勝利したのです。現在、リオでは9月18日までパラリンピックが開催されています。オリンピックでは見られない競技もあります。こちらも応援しましょう。

4年後の2020年（平成32年）には、いよいよ東京でオリンピック・パラリンピック夏季大会が開催されます。4年後の皆さんの成長と合わせて、今からとても楽しみです。

81日間の2学期。健康には十分留意し、充実した学校生活を送りましょう。

2 学年では、博物館、美術館を中心にした東京都区内での校外学習を行いました。今回は、修学旅行に向けて、自主性や協調性を高めていくために班別行動で実施しました。スローガン決めやルール作りなどを実行委員会を中心に決め、そこで決まったことをもとに、各クラス班別で、事前学習を進めました。事前学習ではパソコンを使って、自分たちが学びたいことを中心に博物館、美術館を選んで、その場所をまわるコースを決めました。



当日は、普段見ることができないような芸術品や科学技術などに触れ、一度入った博物館に「もう一度入ってもいいですか？」という言葉が出てくるほどに興味関心が広がっていました。博物館、美術館に入る前と後とでは表情が全く違い、よりよい学びができました。また、東京駅のチェックポイントでは、写真を本部携帯に送信することでチェックとするなどの ICT を利用した活動も行いました。各班多少のコース変更や時間の遅れはあったものの、本部への連絡を怠らず臨機応変に行動し、安全に帰ってくる事ができたことも一つの成果です。

今後は、事後学習として、学習係を中心に当日撮ったたくさんの写真を使用しながら、まとめをしていきたいと考えています。

2 学年 校外学習 9月9日

いじめ防止教育プログラム 1 年生

今年度も1 学年を対象に、湘南 DV サポートセンターの講師による「いじめ防止教育プログラム」を実施いたします。当センターでは「いじめ」をはじめ、若者たちの間で起こる暴力を未然に防ぐためのプログラムを開発し、学生に向けた暴力防止教育を行っています。生徒たち自身が自主的に考え、行動することを目的としたメソッドとなります。

内 容 ○オリエンテーション ①いじめは許されない (いじめの定義、加被害者の気持ち)
②加害者の背景 (加害者のイメージ) ③大切な自分 (自身と向き合う、友だちのを知る)
④伝えよう、いじめ防止 (自分も相手も大切に作るアサーション)



学年全体へのオリエンテーション後、クラス単位で4回に渡って行われます。

1 年生の受講が修了すると、三中生全員がこのプログラム受けていることとなります。

いじめの未然防止・根絶、そして、暴力によらないコミュニケーションで温かな言葉の行き交う三中を目指します。

ひまわりプロジェクト



今年度も背の高い大きな「ひまわり」が咲きました。今年度も三中では、『ひまわりプロジェクト』を行っています。近隣の方の協力で、ヤクルト研究所近くの畑で、ひまわりの種まきを1 学年、刈り取りを3 学年、種穫りを2 学年が行い、町田リス園に寄付します。刈り取りは9 月9 日に、種穫りは17 日に行う予定です。来年度は、行って頂いている、種まき、刈り取り等の準備も手伝おうという声が上がってます。

12 (月) 学校公開週間 始

16 (金) ⑤⑥奉仕活動(2)

道徳授業地区公開講座
17 (土) ④道徳講演会
学校公開週間 終

19 (月) 敬老の日

9 月

21 (水) 定期考査一週間前
家庭学習強化週間

22 (木) 秋分の日

23 (金) ⑤生徒会立会演説会
⑥役員選挙

28 (水) 中間考査 始

29 (木) 中間考査 終
生徒委員会(後期)

30 (金) いじめ防止プログラム終(1)

9月中旬～10月中旬の予定

1 (土) 都民の日

4 (火) ⑤⑥合唱コンクールリハ(3)

5 (水) 生徒委員会
貧血検査(2)

10 月
6 (木) A組マラソン大会

8 (土) 合唱コンクール 兼松講堂

10 (月) 体育の日

11 (火) 避難訓練

12 (水) 復習確認テスト(3)

部活動 大会結果

ソフトボール部

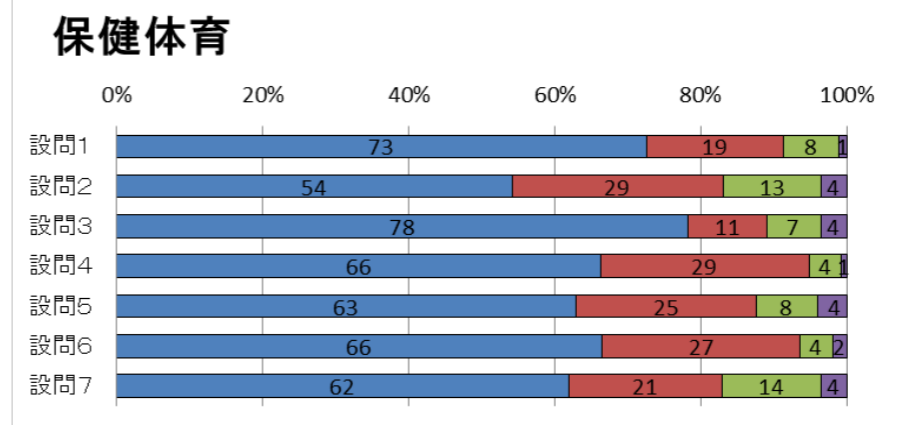
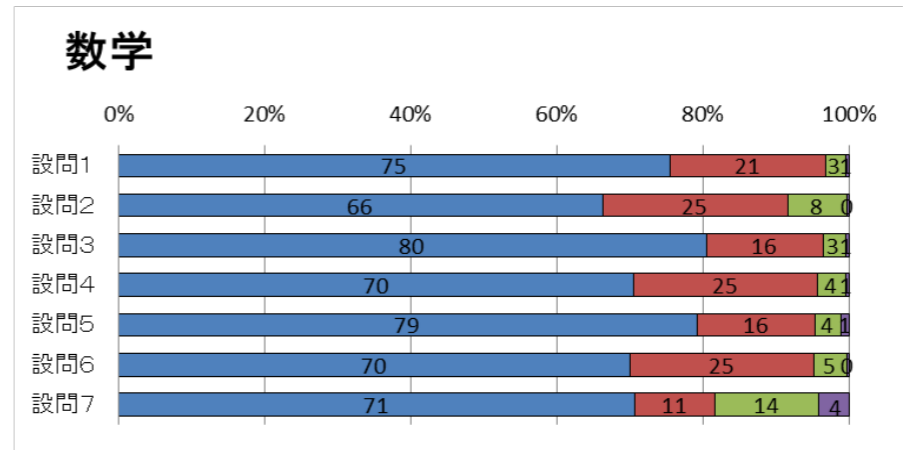
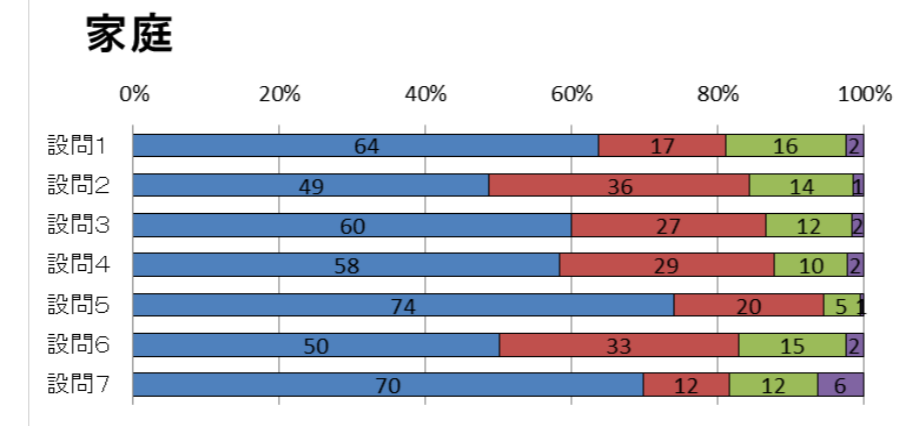
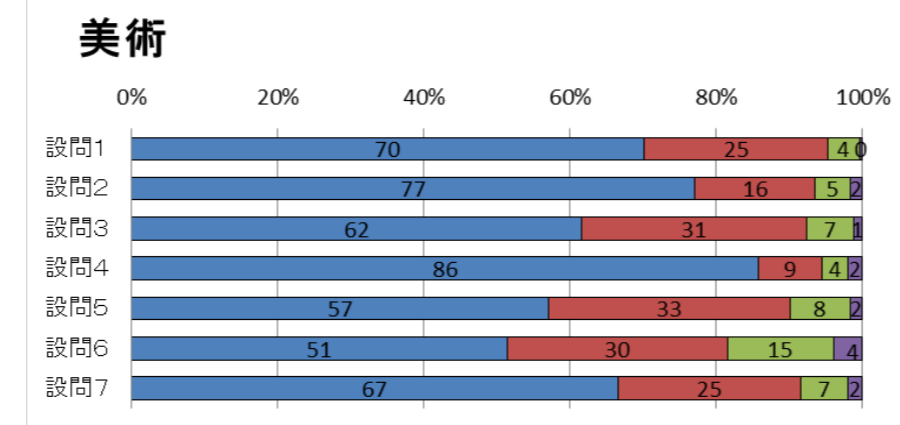
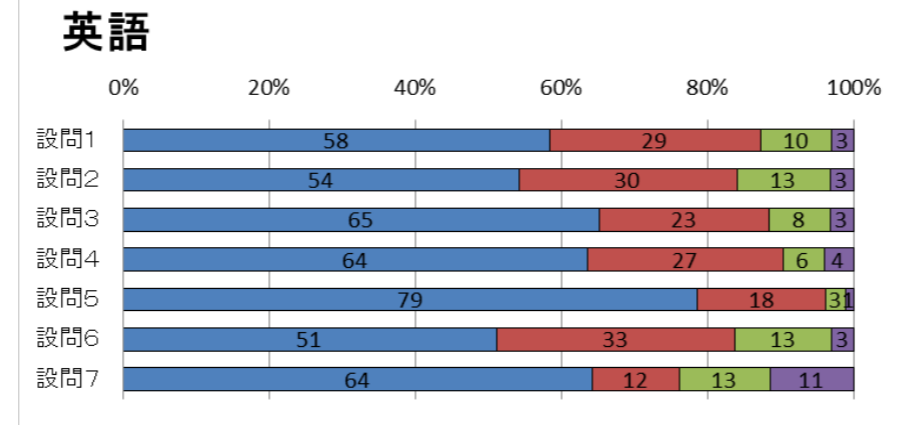
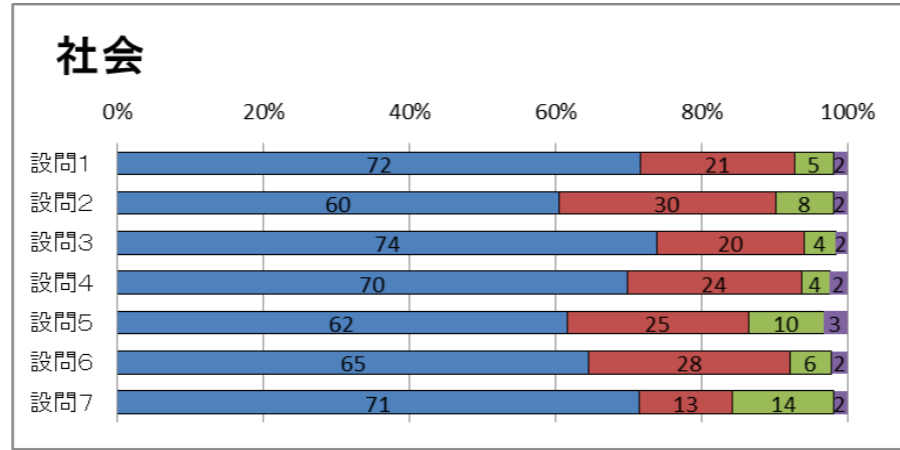
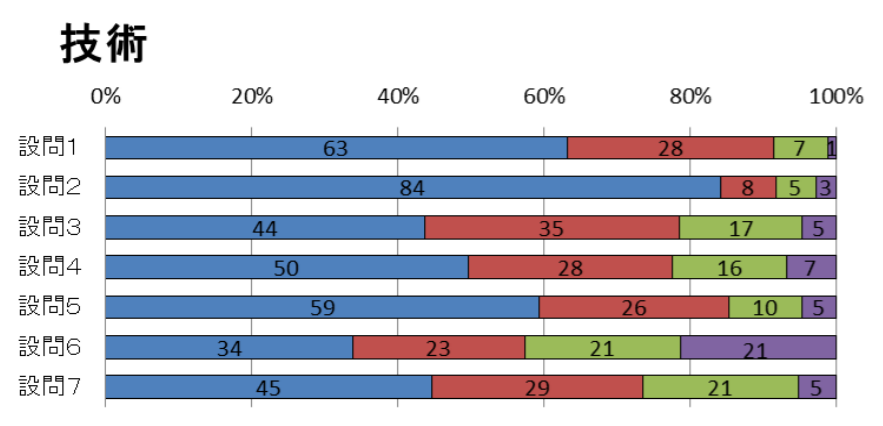
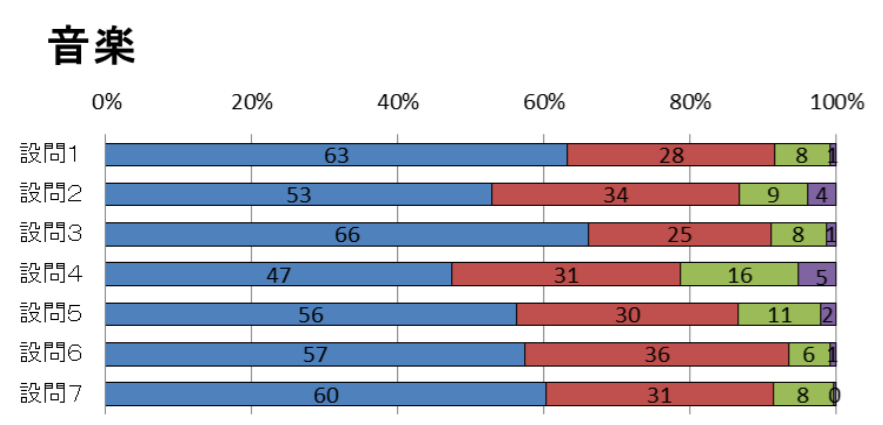
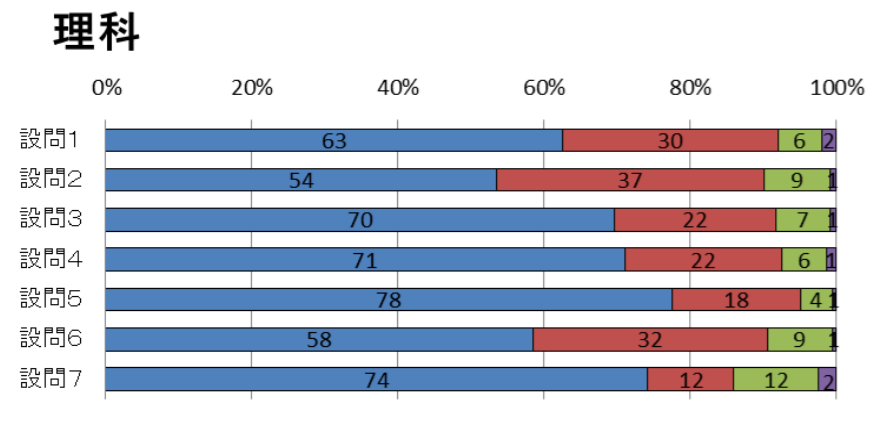
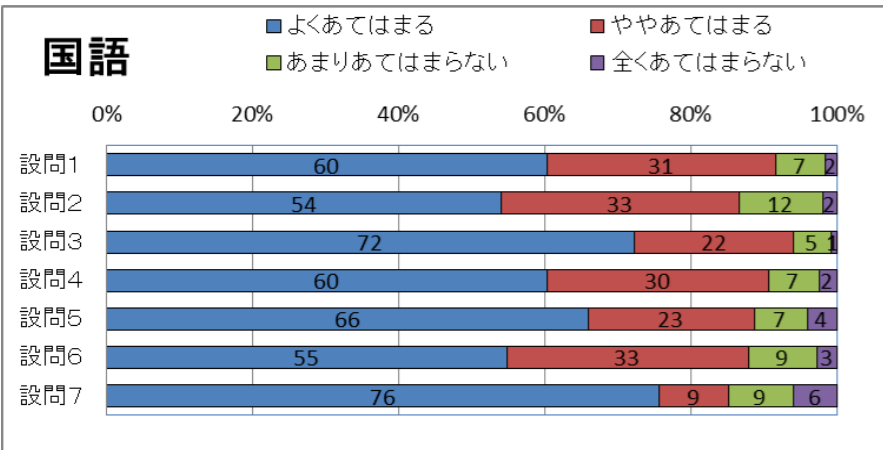
都大会
2 回戦進出

吹奏楽部

都吹奏楽コンクール
A 組
銀賞受賞



平成28年度 1学期 学習・授業評価アンケート集計結果 科目別



設問1: 各時間のねらいがわかりやすく伝わっている。
 設問2: 先生の説明や授業内容を理解することができている。
 設問3: 黒板は、わかりやすく書かれている。
 設問4: 使用している教材(写真・絵・パソコンの画像・動画)やプリントは、わかりやすい。
 設問5: 指名する時に「くん」「さん」をつけるなど丁寧な言葉づかいで話している。
 設問6: 先生によるその日の授業のまとめは、わかりやすい。
 設問7: 授業の進む速さは、適切である。
 ①よくあてはまる ②ややあてはまる ③あまりあてはまらない ④全くあてはまらない
 * 設問7のみ ①適切である ②とても速い ③速い ④遅い

授業評価アンケートより

全学年を通しての分析と課題

* 各教員でアンケート結果を分析し、成果や今後の課題を考察し、2学期の指導に生かしていきます。
以下は全体を通しての分析と課題です。

○設問1 『ねらいがわかりやすく伝わっている』

「よく～ややあてはまる」と答えている割合は、数教科を除いてほぼ9割以上となる。
今年度の大きな取り組みのひとつでもあるので、全教科で数値を更に上げていくことが課題である。

○設問2 『先生の説明や授業内容を理解することができている』

「あまり～全くあてはまらない」と答えている生徒の5教科平均割合値は、1年で7%、2年で9%、3年が17%となる。
学年が上がるにつれ、増えているのは、授業内容が難しくなっており、生徒も難易度を感じているからと考える。
基本の定着を図り、難易度の高い内容を難易度が高いと感じさせずに指導する方法を工夫し改善していく努力を要する。
また、4科の方が、5科に比べて、「よく～ややあてはまる」と答えている割合が低い傾向にある。一定の実技科目に苦手意識を植え付けずに、生徒の意欲を引き出して行くことが課題である。

○設問3 『黒板はわかりやすく書かれている。』

各学年 「よく～ややあてはまる」と答えている割合の5科の平均数値は90%を超える。
今後もわかりやすく書くように工夫し、さらに努力を続ける。

○設問4 『使用している教材やプリントはわかりやすい。』

「よく～ややあてはまる」と答えている生徒は5教科では、1, 2年生は95%を超える。3年生も平均87%、教員が工夫をしている結果が生徒に伝わっていると言える。今後も理解を促すような教材を適宜用いるようにする。

○設問5 『丁寧な言葉遣いで話している。』

平均値は90%を超える。しかし、教科によってかなりのバラツキが見られる。全教員が自覚をし、意識して言葉を発することが必要である。

○設問6 『まとめはわかりやすい』

「よく～ややあてはまる」と答えている生徒は5教科の方が4教科より多い。5科平均値は、1, 2年では94%、3年では83%とやや差がある。めあてと共にまとめも効果的に行い、知識や理解の定着を目指したい。
『ねらいがわかりやすく伝わっている』と『まとめはわかりやすい』に「よく～ややあてはまる」と答えている生徒の割合は連動している傾向にある。ねらい、まとめ共に定着させ、学習効果を高めていきたい。

○設問7 『授業の進む速さは適切である』

『進む速さが適切である』と答えた生徒は全学年全教科の平均は70%程度であるが、教科によってバラツキが多い。
また、1学年では「遅い」と感じている生徒が他学年より多い。これは、学習内容の難易度が高くないことによると考えられるが、既に「速い」と答えている生徒もいる。
1学年は、中学校の各教科の授業の進め方に慣れていないということ、理解度に差があるということが考えられる。一斉授業の中で、教員側の工夫を要する。